

[集計結果から]

生徒の回答で、AやBの肯定的な意見が昨年より増えているものは、

- No1 「**自分は、楽しい学校生活を送れている**」は、肯定的な意見92%と、3年連続同じ結果となっていますが、全く当てはまらない0%となっていることは、嬉しい結果となりました。
- No2 「**自分は、学習や生活で目標を持って学校生活を送っている**」が、昨年よりも5%増え、肯定的な回答を92%の生徒から得ることができました。抱負や決意表明をする機会があることが効果となって現れていると考えられ、目標をもって学校生活を送れている生徒が増えており、普段の声かけが響いているようです。
- No6 「**自分は、家庭学習(塾を含む)を熱心に取り組んでいる**」が、10%増えています。78%の生徒に、学習習慣が身に付いています。さらに、課題の出し方について研究するなどの工夫を行っています。
- No9 「**自分は、健康な生活づくり(食事・睡眠・生活リズム)に努めている**」が3%増えています。保健指導の効果が現れてきています。
- No10 「**自分は、部活動(校外クラブ活動も含む)に一生懸命取り組んでいる**」が5%増えています。部活を通して様々なことを学び、一生懸命取り組むことで学校生活の充実感につながっているようです。
- No11 「**自分は、学校行事や生徒会活動に一生懸命取り組んでいる**」が2%増え、否定的な回答が4%減っています。ほぼ9割の生徒が肯定的な回答をしています。

生徒の回答でAやBの肯定的な意見が昨年より減っているものは、

- No4 「**自分は、授業が楽しく、内容がよくわかる**」が、3%減っています。13%の生徒が否定的な回答をしており、来年度の課題として全教職員で取り組む必要があります。楽しくわかりやすい授業のために、さらに、教材研究に力を入れる必要があります。教員が教材研究に時間をさける環境整備に努めたいと思います。学ぶことが楽しく理解しやすい授業の展開が望まれます。
- No5 「**自分は、本をよく読んでいる(2冊/1ヶ月 程度)**」が、8%減っています。本を読む習慣を身につけるために、まずは、教員自身や保護者の方が本を読んでいる姿を見せるとよいのではないのでしょうか。
- No13 「**自分は、地域や社会の役に立つために何をすべきか考えることがある ※R2年度新設の設問**」が、8%減っています。地域への貢献度に対しての肯定的な回答は58%でした。災害発生時に近隣の人々とのコミュニケーションや関わりが低いと、より深刻な状況になることが懸念されます。普段からの関わりについて、考えていかなければなりません。
- No14 「**先生は、わかりやすい授業をしてくれる**」が、4%減っています。教材の精選と、生徒がわかったと感動できるような授業展開の工夫が必要です。また、自分から主体的に学ぶ姿勢を身につけさせる必要もあります。
- No15 「**先生は、自分の悩みなどの相談に適切に対応してくれると思う**」が、6%減っています。中学生の時期は、何かしらの不安や自分に対して不満足な気持ちを抱いていると考えられるので、配慮が特に必要な生徒へは、担任を中心としながら、面談等の実施も検討が必要です。
- No17 「**学校は、校内の環境美化や施設・設備の整備に積極的に取り組んでいると思う**」が、6%減っています。子ども達が気付き、不快に感じていることがあると考えられます。また、教師が、日々の清掃活動・環境整備を積極的にする必要があると考えます。
- No19 「**学校は、地震・津波・不審者など、危機に対応する指導ができていると思う**」が、4%減っています。備えを十分に、危機管理を徹底していきたいと思います。

[次のような意見がありました]

- 総務の仕事や図書委員の仕事など、任された仕事に責任を持って、勤めを果たすことができました。
- 勉強を頑張りました。内容が難しくなった分、家庭学習での取り組みかたを工夫しました。
- 部活ではチームをまとめられるように頑張りました。もっと周りを見てチームの様子を把握しようと思います。
- 提出物が期限までにしかなかったことが多かったので、気をつけたいです。